

平成年 31 度 科目名 (現代文 B)

1 対象年次、単位数、使用教科書

2～4年次 4単位 教科書 「標準現代文」(第一学習社)

2 科目の目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

3 評価規準 (何を評価するか)

基本的な語句の読解及び理解に加えて、内容の発展的な問題への理解度を段階的に評価する。

4 評価基準 (どんな方法で評価するか)

試験を主資料とし、レポート・スクーリングを考慮して総合的におこなう。

レポート・試験のいずれにおいて評価2以上を得、スクーリングにおいて規定時数を満たした場合に、4単位を認定する。

5 試験範囲と試験による評価基準

R 1～R 4の範囲で7月試験、R 5～R 8の範囲で10月試験、R 9～R12の範囲で1月試験を実施する。

評価は30点以上を合格とする。

なお、29点以下については再試験とし、その場合も30点以上を合格とする。

6 スクーリングの目標・内容・計画

スクーリングは生徒の質問に個別に対応することを基本とする。

スクーリングに取り組む姿勢を考慮し、学年末評価の参考資料とする。

R	項目	内容	教科書	時期
1	【自己を見つめる】 「私」という「自分」	発想の転換を図る中で、多様な価値観から形成されている世界のあり方を把握する。	P15～ P21	5月 月上旬
2	【小説を読む】 「相棒」	タイトルから想像を広げるおもしろさに気づかせ、テーマに収斂することを理解する。	P88～ P97	5月 月中旬
3	【詩を味わう】 「永訣の朝」など	近代詩のさまざまな技法、詩形、イメージ、レトリックを学び、内容を正しく理解する。	P64～ P69	6月 月上旬
4	【言葉と生活】 「情けは人の……」	自分を取り巻く社会についての認識を深めるとともに、そのあり方について考察する。	P70～ P79	6月 月中旬
5	【創作の楽しみ】 「短歌と俳句」	短詩形の形式と表現方法の特色を理解し、その効果を考え、自ら創作を試みる。	P112 ～119	7月 月中旬
6	【生への思索】 「僕らの時代のメディア・リテラシー」	情報化社会に生きる中で、必要となるメディア・リテラシーについて考察し、文章を正確に読む力を身につける。	P267 ～277	8月 月上旬
7	【小説を読む】 「鼻」	登場人物の心理変化を踏まえて、人間心理の複雑さや人間関係の微妙さについて考える。	P138 ～151	8月 月下旬
8	【世界を見つめる】 「ワスレナグサ」	「自然」と「人間」に対する関心を深め、それを考察する力、表現する力を養う。	P190 ～197	9月 月中旬
9	【小説】 「ひよこの眼」	回想形式で始まることを意識し、ストーリーの流れと小説全体の構成を捉える。	P219 ～233	10月 月中旬
10	【新しい視点】 「記憶のゆがみ」	論理的な文章を読み、情報を整理する力を身につけ、考え方の柔軟性を養う。	P234 ～240	11月 月上旬
11	【人間と社会】 「経験の教えについて」	筆者の関心や問題意識を受け止め、自己のあり方について見つめ直す契機とさせる。	P316 ～325	11月 月下旬
12	【小説】 「山月記」	人生の問題に真摯に向き合う登場人物の内面的葛藤、その結果としての精神の成長をたどらせる。	P349 ～363	12月 月上旬